

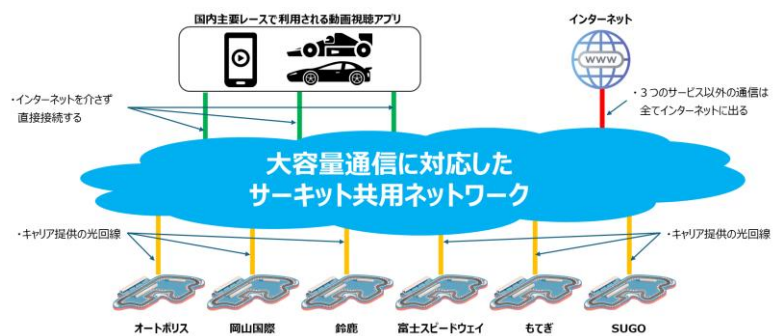
## 大容量データ通信に対応したサーキット向けネットワーク実証を開始

-スーパー耐久シリーズ第3戦富士 24時間レースで通信品質を検証-

日本自動車会議所は、モータースポーツ業界におけるデジタル環境の強化による、利用者の方々の利便性向上を目的に、お客様（来場者）・チーム（エンタラント）・メディアなどによって生じる大容量データ通信に対応できるネットワークの実証実験を開始します。

今回の実証では、ウーブン・バイ・トヨタが保有する大容量通信ネットワークを一時的に活用し、レース開催時に急増するデータ通信を安定して処理できるかを検証します。対象は、富士スピードウェイ（静岡県小山町）で開催される「スーパー耐久シリーズ第3戦富士 24時間レース」です。チーム（エンタラント）における走行車両データの伝送やメディアセンターおよびメディアラウンジにおける Wi-Fi 通信、サーキット内の映像配信効率化などを検証し、将来的なネットワーク整備の方向性を探ります。

また、複数サーキットがネットワークを共用することで、個別に設備を整えるよりもコストを抑えられる仕組みづくりも視野に入れております。本取組は、日本自動車会議所モータースポーツ委員会と国内主要サーキットが連携し、業界全体の通信インフラを最適化するプロジェクトの一環として実施するものです。



左：富士 24 時間レースの様子、右：サーキット共用ネットワーク構想イメージ

## 1. 背景

レース開催時のサーキットでは、以下のように多様な利用者が大量のデータ通信を行います。

- ・お客様（来場者）：レース動画の視聴、SNS 投稿、キャッシュレス決済
- ・チーム(エンタラント)：走行車両のオンボード映像や車両データ伝送(技術開発にも活用)
- ・運営：レース映像配信、デジタルフラッグなどの競技運営データ
- ・メディア：写真・動画のアップロード、記事更新

一方で、レースがない日は通信量が大幅に減るため、ピーク時に合わせた通信設備を常設することはサーキットにとって大きな負担となる課題がありました。

日本自動車会議所モータースポーツ委員会では、四輪・二輪の各統括団体である「日本自動車連盟 (JAF)」・「日本モーターサイクルスポーツ協会 (MFJ)」や国内主要レースのプロモーターである「GT アソシエーション (GTA)」・「日本レースプロモーション (JRP)」・「スーパー耐久未来機構 (STMO)」が参加し、関係者一丸となってこうした業界課題の解決に取り組んでいます。同委員会では、サーキットと連携し、モータースポーツ業界全体のデジタル基盤強化による、利用者の方々の利便性向上を目的とした取り組みを推進しており、本実証はその一環として実施するものです。

## 2. 実証実験の概要

実施期間	: 2026年6月～2026年12月
今回実施対象	: スーパー耐久第3戦富士24時間レース
実施場所	: 富士スピードウェイ (静岡県小山町)
実施内容	: チーム (エンタラント) による走行車両データの伝送 大容量通信ネットワークによるメディア向け通信品質の改善 通信網内への配信サーバ設置による低遅延の動画配信実証
関係者	: 富士スピードウェイ株式会社、ウーブン・バイ・トヨタ株式会社、 シスコシステムズ合同会社 (機器提供・技術サポート)、 株式会社インターネットイニシアティブ・ 株式会社 IIJ エン지니어リング (機器提供・技術サポート)、 一般社団法人スーパー耐久未来機構、一般社団法人日本自動車会議所

## 3. 実証の狙いと期待される効果

- ・チームによるオンボード映像や走行車両データの大容量伝送の安定化
- ・メディア向け通信環境の改善による画像・映像のアップロード、記事更新の効率化
- ・サーキット内の映像を S 耐 TV (YouTube) 等へ配信することによる配信速度の向上

## 4. 今後の展望

今回の実証結果を踏まえ、チーム・メディア向けだけでなく、お客様 (来場者)・運営など幅広い利用者が快適に使える通信環境への拡大を検討します。また、複数サーキットがネットワークを共用することでコストを抑えられる仕組みづくりや将来的な広域ネットワークの構築についても検討を進めます。